

第23回庭野平和賞受賞記念講演

「ラバイズ・フォー・ヒューマン・ライツ」にとって、このたび2006年（第23回）庭野平和賞を受賞できることはたいへん名誉なことです。私たちを選んで下さったみなさまと神の御前で、本日、私たちは誇らしさを感じるとともに謙虚な気持ちであります。いまなお非人間的な行為に苦しんでいる地域や世界のなかで、私たちが成し得たことはささやかではありますが、誇るべきことであると思います。しかしながらすべきことが残されていることや、これまでの活動も私たちの組織だけによるものではなく、また単独では成し得ないことを知っているからこそ、謙虚にならざるを得ません。このたび私たちの活動をお認めくださったことに感謝いたします。庭野平和賞の受賞は、私たちにとって励みであるとともに、今後のさらなる活動を可能にしてくださるものです。天のご加護を得て、新たな活力と強い心で人権擁護と世界平和に向けて献身することをお誓いします。

「ラバイズ・フォー・ヒューマン・ライツ」はヘブライ語でショムレイ・ミシュバ、すなわち正義の後見人という意味であり、旧約聖書の預言者イザヤによる「正義を守り、常に正しく行うものは幸いである」という言葉に由来しています。

伝え話によると、ある王様が忠実な助言者を二人呼び、それぞれに1ブッシュルの小麦を与えてこう言いました。私は長い旅に出るから、自分が戻ってくるまで小麦を守って欲しい、と。すると、二人のうちひとりは、すぐさま最も頑丈で一番安全な箱を作らせ、中に慎重に小麦を入れて特別な黄金の鍵で箱に鍵をかけ、以後肌身離さず鍵を携えていました。一方、もうひとりは、小麦から種を取り出し、そのうちのいくらかの種をまき、残りを小麦粉にしました。王様が戻ると、二番目の助言者はしっとりした焼きたてのパンを差し出して王様を迎える、しかも、豊かに育った金色の畠を見せることができました。一方、一番目の助言者は、王様から受け取った小麦を差し出すことしかできなかったのです。

ラビとは、ユダヤ教の教典や法体系や慣習をよく学び、仲間のユダヤ人男女の学習と理解、また祈りやしきたりやユダヤ式の振る舞いを教え導くユダヤ人のことです。ラビの仕事はユダヤ人の伝統を守る仕事であり、それは勉強し、法律や儀礼を厳格に遵守し、日々の、あるいは週単位や年単位の祝祭や記念行事を行い、また祈りを捧げることではじめてなしうることだと信ずる人が多くいます。こういったことがらは、確かにラビの、そして全ユダヤ人の大事な仕事であり、実際「ラバイズ・フォー・ヒューマン・ライツ」のメンバーたちにとってもそれは仕事の一部であり、私たちは理解の限りそれらの仕事を行っています。しかし、それだけではユダヤ教を守ることはできません。それでは、1ブッシュルの乾いた小麦を保存するのと同じです。

勉強の大事な点は、行動のしかたを教えることです。祈りや儀礼の重要性は、他の人々との日常的な交流のなかで、私たちのスピリチュアルな生活面に焦点を据えることがあります。ユダヤ人がユダヤ人として生きるために、集団やコミュニティが必要です。人と人との触れ合いが、先の王様のたとえ話にあるような、実りをもたらす黄金色の畠なのです。聖書をはじめとし、その後のユダヤ教の法典は、多くの場所で仲間の人間に対してどう振舞うべきかを教えています。それは、家の中に閉じこもって勉強し、祈りを捧げることではなく、自分のコミュニティや国や、ひいては世界全体の活動に積極的に参画することによって最も良く保たれるのです。後見人としての私たちの職務は、行動によるものでなくてはなりません。それが「ラバイズ・フォー・ヒューマン・ライツ」の大きな力であり、また私たちにとって大きな課題でもあるのです。私たちは学び、そして教えます。私たちは、教師、子供たち、兵士、学生を対象に、ユダヤ教の伝統と人権のつながりに関する理解を深めるためのプログラムを開発しています。そしてまた、他宗教の指導者たちに学び、かつ教えるなかで、異なる伝統にもかかわらずたくさんの共通点があることを発見するのです。

私たちはまた行動します。貧困に苦しむ人びと、失業者、また高齢者や病人とて不利な経済政策に対してはロビー活動を行い抗議します。経済政策によって悪影響を受けている社会的弱者が、自らを助け周囲の人びとを助ける力を得られるように働きかけます。一部のユダヤ人が、ユダヤ教はユダヤ人だけの権利、とりわけイスラエルの土地に対するユダヤ人の権利のためだけにあると考え、暴力によってパレスチナの農民たちを脅かしているときは、パレスチナの農民に付き添って彼らの農地まで一緒に行きます。私たちはまた、パレスチナ人にとって農業をする権利が与えられ、しかもそれが遵守されるよう法廷で訴えます。私たちは、住宅を再建し、樹木を植え直します。そしてテロの犠牲者を見舞い、人道的な援助を差し伸べ、議論をし、再び考えます。イスラエルで唯一、私たちは幅広い宗派に属する正統派ならびに非正統派のラビたちを一つの組織に繋ぎ止めています。それこそが平和賞に値するものと私は思います。価値というのは、充足されてはじめて保たれるものです。私たちは共に行動し学ぶことを通して、ユダヤ教による正義の価値と全人類の平等を守っていかなければなりません。それこそがショムレイ・ミシュバが意味するものなのです。

「父祖の教え」、賢人たちのことわざ（2章15節）において、私たちは次のように学びます。ラビ・タルフォンは言った：一日は短く、仕事は多い。労働者は怠慢である。報酬は非常に大きく、家の主はせきたてる。

一日は短く、仕事は大量であるということの意味について述べましょう。しばしば私たちは、イスラエルと管理地域の人権問題について、なすべき仕事のあまりの多さに圧倒されがちです。あまりに多い人権侵害の例を前に、時間だけが過ぎていく感覚にしばしば襲われます。このことは特に個人レベルの問題で顕著です。子どもたちに食事を与えること

さえできないシングルマザー。検問所の妊婦。銃の引き金に指をかけている兵士。こうした問題に対して、一日は実に短かいのです。しかし、すぐに答えを見つけ、解決策を与える、救いの手を差しのべなければならないのです。

また、より大きな問題でも、時間が刻々と過ぎてゆくのを感じます。このまま管理地域における人権侵害がますます激しさを増した場合、イスラエルとパレスチナの双方にとって前途は深刻です。なぜならテロが、以前にましてその醜悪で残忍な顔を現して来そうだからです。生きる権利に対するおそらく最悪な侵害の一つといえるテロが続くならば、一層多くのイスラエル人が、全パレスチナ人、全アラブ人を敵と見なして、それ相応の行動をとるでしょう。このまま、弱者や貧しい者が隅に追われ、尊厳ある生活を送る権利を否定され続けるなら、社会は経済やモラルの崩壊の危機に瀕します。一日は短かく、なすべきことは即やらなくてはなりません。その上で長期的な計画に責任をもって取り組むことは、本当に困難なことです。将来の指導者や、兵士や、そして社会全般を教育することは、時間のかかる道のりです。宗教間対話や能力開発、そしてオリーブの木のゆっくりとした成長。それらはみな時間がかかります。しかし必要なことなのです。

「ラバイズ・フォー・ヒューマン・ライツ」の各メンバーは、イスラエルの人々、土地、そして国家への無限の愛から行動しています。私たちはイスラエルの人々がさまざまな国家にとって光となるように、イスラエルの地が全人類のために祈りを捧げる館になるように、またイスラエルという国家が孤児や未亡人や異邦人を抑圧せず、「国が国に向かって剣を上げることがない」という預言的ビジョンを実現できるように、祈りを捧げ、行動します。

なかには、私たちが非現実的な理想主義者であると非難する人たちがいます。彼らに対しては、近代シオニズム運動の父祖、セオドア・ヘルツルの「意思あるところに道は通ず」という言葉で返答しましょう。

あるいは、私たちがイスラエルの行動や政策を批判するとき、国家を脅かすものだと批判する人たちもいます。彼らには、ラビ、アブラハム・ジョシュア・ヘシェルの言葉「民主社会においては、有罪となるものは数人であるが、責任は全員にある」という言葉で返答したいと思います。

もし、私たちが権力の濫用や国家の不正義を糾弾しなければ、濫用や不正がいつまでも続き、外部の敵よりもはるかに効果的に内側から社会を破壊するでしょう。しかも、私たちには現実的に敵がいるのです。イスラエルという国家とユダヤ人という民族は、いまもなお一部の個人や国家にとって憎悪の対象です。ユダヤ人とイスラエルにとってテロはごく現実的な脅威です。そして、イスラエルの人々を護るためにできる最大限の努力をすることが国家に課せられた責務です。

しかしながら、私たちの伝統は、正義は正しい手段によって到達されなければならないことを教えてています。イスラエルに対する安全保障とパレスチナに対する公正さとのバランスに注意を払い、また、自決権と、もっとも重要な生命との間のバランスを慎重にとることは、軽々しく扱われてはならない問題です。一日は短く、双方ともに早急な解決策が必要です。そして、仕事は大量にあるのです。

労働者は怠慢です。それを認めるのは辛いことですが、私たちは自分たちができる事をすべて行っているわけではありません。ここでいう“私たち”とは数多くの人々の集まりのことです。「ラバイズ・フォー・ヒューマン・ライツ」のスタッフたちは、自分たちができるあらゆることを、限られた時間と予算で行っています。一方、組織の名簿に名前は載っているもののあまり行動的でないメンバーの中には、十分な時間のある人たちがいることもあります。ですから、私たちの大きな可能性を現実にし、そのことに誇りを感じて参加できるような仕事をしなければなりません！

より広い人びとの輪というのは、私たちの友人、支援者、そしてパートナーの団体です。彼らの存在なしに、私たちは多くを成し得ません。彼らの存在がなければ、パレスチナの農民たちが自分たちの畠へ行くのに付き添い、家が破壊される脅威にさらされている人たちの相談を受ける人材を確保できなくなります。失業者に対して権利に関するパンフレットを配る人たちもいなくなり、人権侵害を非難するために、クネセト（イスラエルの議会）、米国議会、またその他の国々の政府に手紙を書いて送ることもかなわないでしょう。平等を求めて他の団体と共に闘うなかで、法的、組織的、ならびに実地経験を重ねることもできなくなり、さらに、テロや暴力の犠牲者や私たちの助けを必要としているその他大勢の人々を支援するための財源を得ることもできなくなるでしょう。しかもなお、なすべきことはほかにもあるのです。ボランティアの人たちを活性化し、他の集団のまねではなく共に活動し、寄付に協力していた人びとに手紙の書き手になってもらい、手紙の書き手には活動への参加を促し、活動家にはさらに活動に打ち込んでもらえるように、私たちも学ぶ必要があります。

より幅広い人びとの輪とは、イスラエルの市民のことです。私たちの声が彼らに届く回数は限られています。公正なユダヤ国家を求めて叫んでも、その声は十分に聞こえてはいません。公正なユダヤ国家を求める理由は、公正であってもユダヤ教が不在であればそれは建国の理由とは言えず、ユダヤ国家であっても公正でなければ、それはユダヤ教や国家に対する不正行為を意味するからです。私たちは、疲れ果てた者に力を与える聖なる存在を讃えます。そして私たちは、みずからの怠慢さを克服し、この聖業に関わる仲間たちを元気づけるために努力します。

報酬は多大です。（ここでは受賞のことを指しているのではありません。もちろん、受賞は本当にすばらしいことであり、そのおかげで私たちは組織を維持し、活動を増大し、また自分たちの仕事が賞賛されていることを知ることで、精神的にも満たされているのです。）

私たちの仕事の真の報酬とは、仕事そのものにあります。政府の経済政策を変えることができたとき、パレスチナ人の住む家が破壊を免れたとき、あるいはパレスチナの農民が自分たちの土地で仕事ができるように物的かつ法的な保護を提供することができたとき、私たちは自分たちの仕事が報われたことを強く感じます。掲げた目標をすべて達成することができなかつたときでさえ、仲間たちの笑顔や、改善のために努力したその対象となつた人びとから示される敬意によって私たちは報われるのです。決定的な状況の変化をもたらすことはなかなかできませんが、私たちの行動がしばしば心や考え方へ変化をもたらしていることはわかります。私たちは、パレスチナ人に対して、彼らの幸福のために心を碎き、私たちの政府や仲間によって彼らの諸権利が侵されているときに、決して黙って見過ごしたりしないユダヤ人やイスラエル人やラビがいることを実証してきました。私たちは、ユダヤ教には平和と人間尊重のメッセージがあり、ユダヤ人の心だけでなくパレスチナ人の身体や外国人労働者の財布のことを心配しているラビたちがいることを、ユダヤ系のイスラエル市民に示してきました。私たちはパレスチナ人と肩を並べて仕事をしてきたことで、パレスチナ人の豊かな人間性を自分たちの目で実際に見てきたのです。私たちの組織の理事長であるラビ・アリク・アシャーマンは、自分たちのために心を碎いてくれているイスラエルのユダヤ人に紹介するために、子供を連れて彼に会いにくるアラブの村人たちの話をよくしてくれます。

私の4歳になる子どもは、ユダヤ人の休日であるテュ・ビ・シュバ（“樹木の誕生日”）にパレスチナ人と一緒にオリーブの木を植える手伝いをしましたが、その様子をイスラエルとパレスチナの両方のテレビが撮影してくれました。未来の世代のために希望という種を蒔くことで得られる報酬ほど素晴らしいものは他にはないでしょう。

家の主はせきたてるとはどういう意味かお話ししましょう。「ラバイズ・フォー・ヒューマン・ライツ」は、ラビとして、ユダヤ教徒として、人権のためにしなければならない仕事があつたからこそ誕生しました。私たちにとって神の召命なのです。神は、世界の創造主であり、すべてはその中に含まれます。したがつて神は、命令し、要求する支配者なのです。神はイスラエルの子孫、ユダヤの民の祖先を奴隸の状態から救済し、おかげで私たちは自由の民として神の法律に従う事ができるようになったのです。神は私たちに隣人を愛し、異邦人を愛せよと求めておられます。神は私たちに神の特質を見習うこと、すなわち病人を見舞い、身に纏う物がない者に衣服を与えよと要求されています。神は私たちに平和を求め、かつそれをどこまでも追求するよう命令されています。神は私たちに、他人の喜びだけでなく悲しみも分かち合うことを期待されています。神は私たちの内面に、身の回りの環境と自分自身を変える力を創造されました。私たちもまた世界の修復作業において神のパートナーとして努力することなく、打ちひしがれた国家と世界を癒したまえと単に神に祈るだけでは十分ではありません。

「ラバイズ・フォー・ヒューマン・ライツ」は1988年に創設されました。今年で18周年を迎えます。ユダヤの伝統では、18という数字は特別な意義があります。というのは、

ヘブライ語の文字で綴ると、“チャイ”、すなわち生命という意味になるからです。18年前、「ラバイズ・フォー・ヒューマン・ライツ」はひたむきな仲間たちの小さな集団でした。現在は100名を超すメンバーを抱え、その数は今も増え続けています。イスラエル国内に非常に有能なスタッフを抱え、他国においては姉妹組織をもち、そしてイスラエルだけでなく世界中に何千という友人たちがいます。このように組織の生命は充実して来ましたが、私たちのゴールは常に、生命、生活、および尊厳が冒されている人々の権利のために、彼らに代わって生命のために行動することでした。ユダヤの伝統は、人間の命は量り知れないほど貴重であり、ひとりの人間の生命を救うことは世界全体の救済に匹敵すると教えていました。なぜなら、聖書の冒頭で学んだように、神によってひとりの人間が創造され、その最初の人間がすべての人間の始まりだからです。はじめの人間の肌の色や髪の色、鼻の形や目の色はわかりません——ある伝承では、神は地球の隅々から異なる色の塵をとり最初の人間を創造され、また別の伝承によれば、最初の人間は男性と女性の両性を具えていたといいます。その人間は神の姿に似せて創られたために、神のような魂、失われることのないきらめきを内包していたこと、またその姿は人種、性別、信仰、能力の違いにかかわらず、すべての子孫、つまりひとりひとりの人間の中に受け継がれていることを私たちは知っています。

これは、宗教から見た人権の真髄です。私たちの教典は冒頭で、あらゆる人間には微細ながらも神が与え給うた価値が存在し、ゆえに人は互いに尊敬し合い、かつそれぞれの権利を保証する責任を神から命じられていると明言しています。人間は、神の姿に似せて創られており、そのため決して奪うことのできない権利を持っています。そして人間は、神の姿に似せて創られているために、不断の責任を負っているのです。

中東において特に著しいことですが、宗教が暴力や人権否定に対する回答になるどころか、宗教自体が問題視されることが頻繁におこります。さまざまな党派の原理主義者たちは、正義や権利は、自分たちと同じ信仰を持つ者だけのものである主張します。彼らは、神は自分たちの専有物であり、だから土地や法律や生きる権利に関して、神もまた彼らだけに味方すると主張します。宗教は人びとの間や民族間の不平等の根であり、俗世の現実とかけはなれているという理由で、世俗のヒューマニストたちがすべての宗教を拒絶することはよくあることです。しかし、こうした拒絶反応に対しても原理主義に対しても反対の声を上げ、神聖なる神とあらゆる創造物の間の眞の関係作りの礎となるべき眞実・正義・平和の価値を強調することは、あらゆる信仰者の責務です。「三つのことがらゆえに世界は存在する。それは眞実と正義と平和である」（ピルケイ・アヴオット）。

昨年度の庭野平和賞受賞者であるハンス・キュング博士は、「汝、殺すなけれ」という聖書の戒律を、より積極的に「生命を敬え」という表現で理解し直すべきだと指摘し、あらゆる少数民族の安全、社会や政治における正義、非暴力の文化、そして環境への配慮を求めています。それは私たちが特異で原理主義的な「信仰」から距離を置き、あらゆる創造物に敬意を抱く道へと歩を進められるように、宗教が今日の世界の現実問題に対して発言することを可能にする見事な方法です。そういう道を歩めば、私たちの姉妹組織であ

る「ラバイズ・フォー・ヒューマン・ライツ NA」が取り組んでいる、政府容認の拷問を廃止する行動などにつながってゆくのです。

生命は、生命の源である神が与え給うた最も大切な贈り物です。私たちの記念すべき「チャイ」、すなわち生命を意味する18周年に、私たちは何よりも生命を聖なるものとして大切にし、生命が富み栄える社会を創る力となるようにこの身を捧げます。

「ラバイズ・フォー・ヒューマン・ライツ」が本日受賞した庭野平和賞は、私たちだけでなく、私たちのパートナーや支援者の方々、すなわち信仰の有無やユダヤ人であるか否かに関係なく、共に仕事をし、夢を抱き、学び、祈りを捧げてきた人たちに与えられた賞であります。私たちは、自ら模範となって、またその教えによって、世代を超えて私たちの歩むべき道を照らして下さったすべて人の名においてこの賞をお受けします。そして私たちは、この賞を、悩み苦しむ人たち、人権侵害の犠牲者たちのために捧げます。このたびの表彰が私たちに与えてくださった力を、精一杯彼らのために使います。そして組織の創設者であり初代会長であったラビ・デービッド・フォーマンと組織の創設に尽力したすべての人々、根気強く勇敢な理事長のラビ・アシャーマン、そして本当に献身的なスタッフ全員に感謝しなくてはなりません。そして、何よりも、私たちにこの神聖な仕事をする機会と能力を与えてくださった神に感謝を捧げ、そして祈らなくてはなりません。「ウマアセ・ヤデイヌ・コネナ・アレイヌ」——われらが働きを不動のものにならしめたまえ。